

板橋区環境教育推進プラン 2025 の進捗状況について

板橋区環境教育推進プラン 2025（以下、「本プラン」という。）における令和 3 年度の進捗状況を取りまとめたので報告する。

1 本プランについて

（1）位置づけ

本プランは、「環境教育等促進法」の規定に基づく、「区域の自然的社会的条件に応じた環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する行動計画」として策定している。また、「板橋区環境基本計画 2025」の基本目標を具体化していくための計画としても位置づけている。

（2）計画期間

本プランの期間は、「板橋区環境基本計画 2025」の計画年次である平成 28（2016）年度から令和 7（2025）年度までの 10 年間としている。

（3）指標

本プランでは、環境教育が効果的に実施されているかどうかを測る物差しとして、10 の成果指標を設定し、数値目標を立てて達成状況を進捗管理している。

2 令和 3 年度実績値に基づく進捗状況の点検・評価

令和 3 年度における成果指標の進捗状況について、点検・評価を行った。成果指標については、目標値に対する進捗度を「順調」、「漸進」、「停滞」で評価し、行動変容については、成果指標の基準年値が無いものがあることから、平成 28 年度の数値を基に、平成 30 年度からの進捗を評価する。

成果指標（10 項目）の目標達成状況については、「順調」に推移しているものが 1 項目、目標値に向かっているものの小幅にとどまった「漸進」が 3 項目、数値の改善が認められない「停滞」が 6 項目となった。これらの現状値と目標値とのかい離について十分な原因分析をするとともに、一部に補足情報を追加することで、よりきめの細かい進捗管理を行っていく。

表 1 成果指標の目標達成状況

施策	成果指標数	内訳		
		順調	漸進	停滞
施策1：学びの機会の提供	2	0	0	2
施策2：情報の提供・活用促進	1	0	0	1
施策3：人材の育成・活躍促進	2	0	1	1
施策4：場・拠点の整備・活用	2	0	1	1
施策5：学校等での環境教育の充実	1	0	0	1
行動変容	2	1	1	0
計	10	1	3	6

表2 令和3年度における成果指標の実績と進捗状況

成果指標	基準年値 (H26年度)	実績値			目標値 (R7年度)	(参考)※1		進捗率	※2 進捗度	昨年度 からの 伸び率
		R1	R2	R3		達成率	達成度			
施策1：学びの機会の提供										
①全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数(人)	25,674	25,495	0	0	31,500	0%	C	0%未満	停滞	-
②環境講座参加者数(人)	22,898	20,316	5,753	11,451	30,000	38.2%	C	0%未満	停滞	199.0%
施策2：情報の提供・活用促進										
③環境教育プログラム利用校(園)の割合(%)	74.4	79.5	69.4	60.4	100	60.4%	C	0%未満	停滞	87.0%
施策3：人材の育成・活躍促進										
④人材育成に関わる環境講座参加者数(人)	199	451	185	218	400	54.5%	C+	9.5%	漸進	117.8%
⑤環境学習講師派遣人数(人)	363	290	164	156	500	31.2%	C	0%未満	停滞	95.1%
施策4：場・拠点の整備・活用										
⑥登録環境団体数	27	36	35	29	37	78.4%	B	20.0%	漸進	82.9%
⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数(人)	990	1,064	279	545	1,300	41.9%	C	0%未満	停滞	195.3%
施策5：学校等での環境教育の充実										
⑧外部人材を活用した環境学習実施校(園)の割合(%)	76.1	64.3	36.0	52.3	100	52.3%	C	0%未満	停滞	145.3%
行動変容										
⑨エコ生活(エコアクション9)の実施状況(%)	75.0	81.3	84.3	82.3	100	82.3%	B	29.2%	漸進	97.6%
⑩環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合(%)	63.0※3 (H28年度)	77.1	88.1	86.4	100	86.4%	B	63.2%	順調	98.1%

※1: 目標値に対する実績値の達成状況。AA(達成率 100%超)、A(達成率 90%~100%)、B(達成率 70%~90%未満)、C+(達成率 70%未満でも基準年値を上回る)、C(達成率 70%未満で基準年値より悪化)

※2: 計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に、進捗率が年度目相当の数値になるものを「順調」、年度目相当の数値に届かないものを「漸進」、0%以下になるものを「停滞」とする。(令和3年度は10か年計画の6年度目(一部を除く)であるため、進捗率が60%を超えているものを「順調」とした。)

※3: 行動変容の基準年値のないものについては、計画初年度である平成28年度の実績(63.0%)を基準とする。(令和3年度は評価の5年度目であるため、残年数から進捗率を算出し、55%を超えている場合を「順調」とした。)

3 施策ごとの成果指標の進捗状況概要

施策1：学びの機会の提供

■ 進捗状況

- 成果指標の「①全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数」と「②環境講座参加者数」は、ともに平成26年度の基準年値よりも下回っているため「停滞」とした。

□ 令和3年度の主な成果

(1) コロナ禍に対応したイベントの実施

エコポリスセンター事業において、令和2年度には中止せざるを得なかった講座を、令和3年度には感染対策を徹底したうえで、できる限り実施した。また、非接触で参加できる「デジタルスタンプラリー」を初めて実施し、参加型イベント「環境なんでも見本市」は、Web展示のみならず館内での催しも一部再開させ、区民参加のきっかけを多く提供した。

(2) 新中央図書館との連携

令和3年度より開設した新中央図書館にて、環境関連図書を活用した講座や展示イベントを実施した。また、都市農業係と連携して地元農家の野菜販売も行い、地産地消・エシカル消費を考える機会を提供した。

◇ 進捗度が「停滞」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 「①全区民参加型環境保全キャンペーン」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対象となる事業が全て中止となったため、実績はゼロとなった。今後は感染状況を踏まえ、拡大防止対策を行いながら実施していく。また、打ち水キャンペーンは、集団での実施から個人や家庭での実施に替え、ホームページや SNS を活用し広く区民に参加を呼びかけていく。(R4年度は、規模を縮小して桶・ひしゃくの貸出を行った。)
- ・ 「②環境講座参加者数」は、コロナ禍のもとでの実施(回数や定員減)により、達成率は伸び悩んでいるが、令和2年度の実績値と比較すると大きく増加した。令和4年度以降は、オンラインでの講座や授業を拡充させ、定員制限による影響が少ない形式での事業展開を図り、参加希望者の需要に応じていく。

◎ 補足情報

- ・ 「環境講座等の開催回数」：338回(令和2年度：244回)

施策2：情報の提供・活用促進

■ 進捗状況

- ・ 成果指標の「③環境教育プログラム利用校(園)の割合」は、令和2年度の実績値より減少し、平成26年度の基準年値よりも下回っているため「停滞」とした。

□ 令和3年度の主な成果

(1) “実践”に向けた2つの部会の統合

「環境教育プログラム部会」と「環境教育カリキュラム部会」を統合し「環境教育実践研究部会」を設置した。これまで以上に、プログラム及びカリキュラムの“実践”に重きを置いて、教育委員会と連携しつつ環境教育の推進に努めた。

(2) 児童館・あいキッズにおける環境教育の前進

「③環境教育プログラム利用校(園)の割合」は、保育園・幼稚園45.9%(17園)、小学校76.9%(40校)、中学校45.5%(10校)となった。児童館とあいキッズにおいては、「環境教育を実施している施設数」が、児童館では61.5%(16館)、あいキッズでは70.6%(36校)と、いずれも前年度調査時より増加した。

◇ 進捗度が「停滞」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 令和2年度に続き、感染防止対策として外部からの訪問を制限した学校園が多かったため、エコポリスセンターの出前授業が減少し、それに伴い環境教育プログラムの活用も低下した。しかしながら、環境学習の実施状況調査結果より、「環境学習を独自に実施している」施設が増加傾向であるため、今後は出前授業のみによらず、各主体それぞれの活動の際に取り組みやすくなるよう、引き続き環境教育プログラムの活用例などを紹介し、更なる周知を図っていく。

◎ 補足情報

- ・ 「児童館やあいキッズ等新たな提供先の利用率」

児童館：11.5%(令和2年度：15.4%) あいキッズ：21.6%(令和2年度：19.6%)

施策3：人材の育成・活躍促進

■ 進捗状況

- ・ 成果指標の「④人材育成に関わる環境講座参加者数」は、令和2年度の実績値より増加したが、進捗率が未だ低水準であるため「漸進」とした。また、「⑤環境学習講師派遣人数」は、令和2年度の実績値よりわずかに減少し、平成26年度の基準年値よりも下回っているため「停滞」とした。

□ 令和3年度の主な成果

(1) リモート授業のさらなる拡充

- ・ エコポリスセンターの出前授業においては、令和2年度に続きコロナ禍の対応としてWebを利用したリモートにより実施し、計5回・253人の幼児や小学生に学習機会を提供した。
- ・ 令和3年度は小学校に続き保育園への出前授業においても初めてWeb授業を行った。また、ヤゴ救出作戦においても初めてWebで実施し、資料送付にとどめた令和2年度と比較すると、感染対策と内容の充実の両立を実現することができた。

◇ 進捗度が「漸進」又は「停滞」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 「④人材育成に関わる環境講座参加者数」は、コロナ禍のもとでの事業再開により参加者が回復したが、コロナ前と比較すると未だ数値は低い状況にある。今後も、保育士研修及び教員研修に加え、あいキッズ事業者や児童館職員等への学習機会の提供を継続し、各主体で環境教育を実施する際の指導者を育成する。
- ・ 「⑤環境学習講師派遣人数」は、令和2年度に続き、コロナ禍のもとでの実施（回数や定員減）により、派遣人数がわずかに減少した。一方で、Webを活用した授業の需要や実績は伸びてきているため、今後もリモートを含めた企画を実施し、講師派遣事業の幅を広げていく。

◎ 補足情報

- ・ 「環境学習講師派遣件数」：70回（令和2年度：62回）

施策4：場・拠点の整備・活用

■ 進捗状況

- ・ 成果指標の「⑥環境登録団体数」は、全体の進捗率としては「漸進」としているが、令和2年度の実績値より減少しており、昨年度からの伸び率としては停滞気味である。また「⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数」は、令和2年度の実績値より大きく増加したが、平成26年度の基準年値よりも下回っているため「停滞」とした。

□ 令和3年度の主な成果

(1) 個人・団体に対する持続可能な活動機会の提供

- ・ エコポリスセンターの登録環境団体への情報共有のため、環境活動連絡会を開催した（計5回、書面開催）。
- ・ 「夏休みエコスクール」、「環境なんでも見本市」等の区民が講師となって実施する環境講座や事業の企画に関わる実行委員会など、団体やエコライフサポーターの活動機会及び活動の場の提供を積極的に行った。
- ・ 指導者養成講座「板橋エコみらい塾」の講演会をオンラインで行い、コロナ禍のもとでも継続可能、かつ定員の制限を受けない事業を実施した。

◇ 進捗度が「漸進」又は「停滞」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 「⑥登録環境団体数」は、団体構成員の高齢化による脱退等により、数値が減少した。今後はWebを活用した団体活動の提案や、若年層を巻き込める効果的な協働事業を検討していく。

- ・ 「⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数」は、コロナ禍のもとでの事業再開により参加者が回復したが、コロナ前と比較すると未だ数値は低い状況にある。アフターコロナにおける、Webを活用した事業では、必ずしもボランティアを要しないものもあるため、今後の新たな事業形態に応じた進行管理を引き続き図っていく。

◎ 補足情報

- ・ 「個人ボランティア登録人数」：231人（令和2年度：183人）

施策5：学校等での環境教育の充実

■ 進捗状況

- ・ 「⑧外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合」は、令和2年度の実績値より大きく増加したものの、平成26年度の基準年値よりも下回っているため「停滞」とした。

□ 令和3年度の主な成果

（1）小学校による外部人材活用の増加

- ・ 「⑧外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合」は、保育園・幼稚園21.6%（8園）、小学校86.5%（45校）、中学校22.7%（5校）となっている。中でも、小学校の活用実績が令和2年度実績（51.9%、27校）より大きく増加しており、エコポリスセンター出前講座をはじめ、民間事業者・地域住民・保護者等と連携した学習や、町会等の地域人材を活用した環境活動等、各学校・各教科領域に合わせた環境教育に積極的に取り組んでいる。
- ・ 出前授業以外にも、「ヤゴ救出作戦」「教員研修」等の事業をWeb活用で実施する等、コロナ禍のもとでも継続可能な事業に注力した。

◇ 進捗度が「停滞」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 令和2年度に続き、感染防止対策として外部講師を招いての学習活動を制限した学校園が多く、コロナ前の令和元年度と比較すると、外部人材を活用した割合が低い状況である。令和2年度からはエコポリスセンターの出前授業の一部がWEB対応になり、以前より認知もされてきているため、今後もリモートでの授業も活用してもらえよう周知していく。

◎ 補足情報

・ 「児童館やあいキッズ等新たな提供先の利用率」

児童館：34.6%（令和2年度：11.5%） あいキッズ：19.6%（令和2年度：17.6%）

行動変容

■ 進捗状況

- ・ 「⑨エコ生活（エコアクション9）の実施状況」は、令和2年度の実績値よりわずかに減少し、前年度と同じく「漸進」としている。また「⑩環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合」は、全体の進捗率としては「順調」としているが、⑨⑩いずれも令和2年度の実績値よりわずかに減少しており、昨年度からの伸び率としては停滞気味である。

□ 令和3年度の主な成果

（1）参加者の“その後”を調査するアンケートの実施

- ・ 「⑨エコ生活（エコアクション9）の実施状況」は、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる環境にやさしい9つの行動の実践の有無について、区民向け講座等の参加者にアンケートを実施した。
- ・ 「⑩環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合」は、エコポリスセンターの講座でアンケートを実施することにより捕捉した。また、講座受講者に対する「後追い調査」を初めて実施し、講座受講からおよそ半年後の行動変容を調査した。

（2）ツイッターの有効活用

- ・ 令和3年度は昨年度以上にツイッターによる発信を積極的に（85回）行い、着実にフォロワー数も伸びてきている（令和2年度末：327人→令和3年度末：498人）。今後もSNS等

を有効に活用し事業を行っていく。

◇ 進捗度が「漸進」の項目の要因・今後の方向性等

- ・ 「⑨エコアクション9」は、講座・イベント等のほか、ホームページやSNSを活用し、引き続き普及啓発を図っていく。
- ・ 「⑩環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合」については、令和4年度もエコポリスセンターの環境講座参加者を対象に、後追い調査を継続実施し、講座受講後の行動変容を引き続き分析していく予定である。

◎ 補足情報

・「講座受講後の行動変容分析を目的とした後追い調査の集計結果」

令和2年7月～令和3年6月までに実施した「環境学習事業」及び「指導者養成事業」に参加し、アンケートへの回答があった区民（360人）のうち、その後の行動変容に関する調査に協力いただける方（45人）に対して、後追い調査を実施した。

11人より回答をいただき、集計結果は以下のとおりとなった。

（1）講座受講後、環境に対する意識は変わったか？

変わった：81.8%

変わらなかった：18.2%

（2）「変わった」とは、どのような意識の変化か？（複数回答可）

自然に関心を持つようになった：100%

環境に関するニュースや話題に関心を持つようになった：77.8%

自分の日常生活を見直すようになった：66.7%

（3）講座受講後、環境に関する行動を実践したか？

した：100%

しなかった：0%

（4）上のうち、受講後から始めた行動は何か？（複数回答可）

環境について家族や友達等との間で話題にした：30.0%

プラスチック製品（レジ袋やペットボトルなど）の使用を控えた：22.2%

環境に関する講座（セミナーなど）に参加した：22.2%